

## 科学研究費助成事業 平成25年度予算案の説明

〔 H25助成額:2,318億円【対前年度 11億円増】(※) 〕  
 〔 H25予算案:2,381億円【対前年度△185億円減】 〕

科研費はすべての研究活動の基盤となる「学術研究」を幅広く支援することにより、科学の発展の種をまき芽を育てる上で大きな役割を果たしており、対前年度11億円増の助成額を確保するとともに、以下の改善を図ります。

※平成23年度から一部種目について基金化を導入したことにより、予算額(基金分)には、翌年度以降に使用する研究費が含まれることとなったため、予算額が当該年度の助成額を表さなくなったことから、予算額と助成額を並記しています。

## ◆科学研究費補助金の使い勝手を更に向上させるための改善

## ○科学研究費補助金に「調整金」の枠を設定

科学研究費補助金に新たに「調整金」の枠を設定することにより、研究費の前倒し使用、一定要件を満たす場合の次年度使用等が可能になります。

## 調整金による「前倒し使用」の具体例

○調整金によって可能となる「前倒し使用」の概要は、以下のとおりである。

- ・当該年度の研究が加速し、次年度以降の研究費を前倒して使用することを希望する場合に、当該年度の調整金から前倒し使用分を追加配分する。追加配分した研究費については、次年度以降の研究費から減額する。
- ・前倒し使用を希望する場合は、年2回(9月1日、12月1日予定)の提出期限までに所定の申請書を日本学術振興会に提出する。

例:当初予定:研究期間:3年、研究費総額:3千万円(初年度:1千万円、2年度:1千万円、3年度:1千万円)

2年度目に、調整金による前倒し使用(100万円)を行った場合(2年度目に当初予定額に100万円を加え、3年度目の当初予定額から100万円を減額)。研究期間全体で、当初予定額と変更後の配分額は同額。



## 4. 科研費トピックス

### 調整金による「次年度使用」の具体例

○調整金によって可能となる「次年度使用」の概要は、以下のとおりである。

・研究費を次年度に持ち越して使用する場合、まずは繰越によって対応することが基本であるが、繰越制度の要件に合致せず繰越できない場合及び繰越申請期限以降に繰越事由が発生した場合において、当該未使用額を次年度使用することにより、より研究が進展すると見込まれる場合には、これを一旦不用として国庫に返納した上で、次年度の調整金から、その9割相当額を上限として配分する。次年度使用分として配分する研究費には、下限(10万円)を設ける。

・次年度使用を希望する場合は、提出期限(5月31日予定)までに所定の申請書を日本学術振興会に提出する。

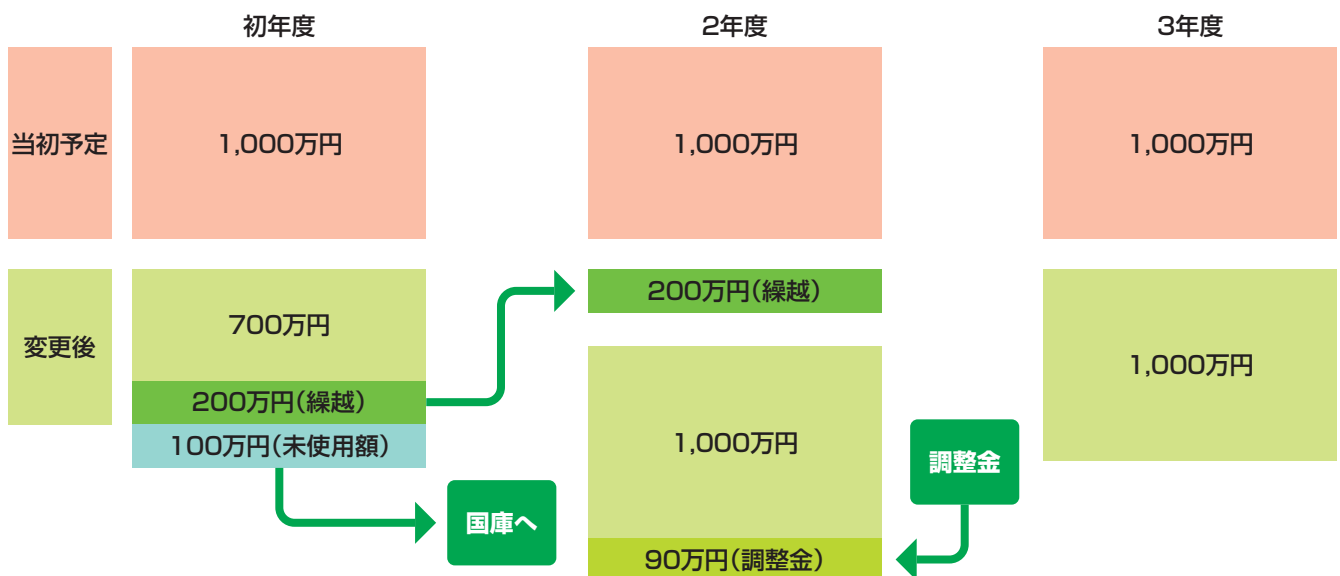
例:当初予定:研究期間:3年、研究費総額:3千万円(初年度:1千万円、2年度:1千万円、3年度:1千万円)

○初年度目は、200万円を繰り越すとともに、100万円の未使用額を国庫に返納し、700万円で補助事業を実施。

○2年度目は、初年度から繰り越した200万円を初年度の補助事業として行うとともに、次年度使用分として90万円の調整金の追加配分を受け、1,090万円で補助事業を実施。

○3年度目は、当初予定から変更なく、1,000万円で補助事業を実施。

以上の変更の結果、変更後の配分額は2,990万円となる。



○特別推進研究に国庫債務負担行為を導入

特別推進研究に国庫債務負担行為を導入し、複数年度の交付決定を可能にします。これにより、例えば複数年度で研究装置の製作を契約し、その製作の進捗状況(出来高)に応じた年度ごとの支出などが可能になります。

○繰越業務の一元化・電子化を図るため、新学術領域研究の交付業務を日本学術振興会に移管

繰越制度を改善するため、電子化による記載ミスの軽減、申請締め切りの延伸を行うとともに、申請書の記載内容をメニュー化し更なる簡素化・省力化を図り、申請から承認までの期間短縮を図ります。(平成25年度補助金を平成26年度に繰り越す時から適用)

◆「研究成果公開促進費(学術定期刊行物)」の改善

○「研究成果公開促進費(学術定期刊行物)」について、種目名を「国際情報発信強化」にするなど、ジャーナルの電子化やオープンアクセス化など学術情報の国際発信力強化に向けた新たな取組等を支援します。

◆日本学術振興会への審査・交付業務の移管

○「研究成果公開促進費」について、日本学術振興会において業務を一体的に行うため「研究成果公開促進費(研究成果公开发表)」の審査・交付業務を移管します。

新学術領域研究(研究領域提案型)・特定領域研究の中間・事後評価について

平成24年10月23日に開催した科学研究費補助金審査部会において、新学術領域研究(研究領域提案型)36領域の中間評価及び特定領域研究の12領域の事後評価について審議した結果、以下のとおり決定されました。

詳細な内容については、下記の文部科学省科研費ホームページをご覧ください。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/chukan-jigohyouka/1327683.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/chukan-jigohyouka/1327683.htm)

○新学術領域研究(研究領域提案型)(対象36研究領域)

A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の進展が認められる	6
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる	22
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる	8
B	研究領域の設定目的に照らして研究が遅れており、今後一層の努力が必要である	該当なし
C	研究領域の設定目的に照らして、研究成果が見込まれないため、研究費の減額又は助成の停止が適当である	該当なし

○特定領域研究(対象12研究領域)

A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の成果があった	1
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった	9
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた	該当なし
B	研究領域の設定目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった	1
C	十分な成果があったとは言い難い	該当なし

保留・・・1研究領域

「我が国における学術研究課題の最前線(平成24年度)」を公開

日本学術振興会及び文部科学省において審査を行った研究種目のうち、比較的研究費の規模が大きく特に高い評価を得ている研究を支援する「特別推進研究」、「基盤研究(S)」や研究者グループによる研究フロンティアの開拓を目指す「新学術領域研究(研究領域提案型)」の新規採択研究課題の研究概要等を取りまとめました資料を公開しております。

以下より、ダウンロード可能となっておりますので、ご活用下さい。

〈和文〉[http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30\\_front/24\\_wabun.html](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30_front/24_wabun.html)

〈英文〉[http://www.jsps.go.jp/english/e-grants/grants12\\_2012.html](http://www.jsps.go.jp/english/e-grants/grants12_2012.html)

